

9 高額な就活サポート契約に気をつけよう！

就職活動のための無料面談や無料セミナー、オンライン相談などで、高額なサポート契約をしてしまうトラブルが発生しています。

無料セミナーや相談だけのつもりが…

事例1 就活情報サイトから届いた無料セミナー案内を見て事業者の事務所に出向き、「就活に有利」と言われて就活サポートを契約した。総額が約80万円になってしまったが、役立つ内容ではなかった。

事例2 SNSで就活相談を受けている人に連絡し、現状を伝えると「今のままでは厳しい」と有料のサポートを勧誘された。よく考える時間もなく、言われるがまま3カ月間で約12万円の契約をしてしまった。



！トラブルにあわないために

- ▶ 無料面談や無料セミナーだけのつもりでも、高額な契約の勧誘を受けることがあります。有料サービスの勧誘の有無や内容を事前によく確認したうえで、参加を判断しましょう。
- ▶ SNSで知り合った人からの「相談にのる」などの一見親切な誘いや、不安をあおるような言葉にも、注意が必要です。

参考



参考 「無料」セミナーだけのつもりが…高額な就活サポート契約にご注意！(国民生活センター)

10 消費生活センターに相談しよう



消費者庁
消費者ホットライン188
イメージキャラクター イヤン

「お試しのつもりで注文したら、定期購入だった」「SNSを見て、副業で簡単に稼げると思いお金を支払ってしまった」—こんなときは、すぐに消費生活センターに相談しましょう。

どんな支援が受けられるの？

専門的な知識を持った消費生活相談員^{*1}が、あなたのトラブルの状況を聴き取って、具体的な解決方法についてアドバイスをします。消費者ホットライン「188」^{*2}に電話をすると、最寄りの消費生活センター等の窓口^{*3}が案内されます。また、メールやウェブフォーム等で最初の受け付けをしてくれる消費生活センターもあります。

相談する前に、できるだけ用意しておきましょう

- ☑ 契約の内容が分かるもの（契約書など）
- ☑ 契約の金額が分かるもの（請求書やレシートなど）
- ☑ 商品やサービスの保証書
- ☑ 購入のきっかけとなったパンフレットや広告
(スマホ等の場合は画面のスクリーンショットなどを保存しておく)
- ☑ ネット通販に関しては、販売サイトの画面やURL、メールやSNSでのやり取りを保存したもの
- ☑ トラブルになったいきさつを、順を追ってまとめたメモ
- ☑ 製品事故の場合は、製品や現場の写真、記録など

- ^{*1} 相談員には法律等による守秘義務があり、相談に関する情報が外部に漏れることはない
- ^{*2} 相談窓口につながった時点から通話料金がかかる（相談は無料）。電気通信事業者の通話料金定額サービス等を契約していても、別途ナビダイヤル通話料金が発生する
- ^{*3} 国民生活センターのウェブサイトから電話番号や受付時間等を検索できる

特集

知って防ごう！ 消費者トラブル

*3



1

アテンション・エコノミー —なぜ見続けてしまうの？



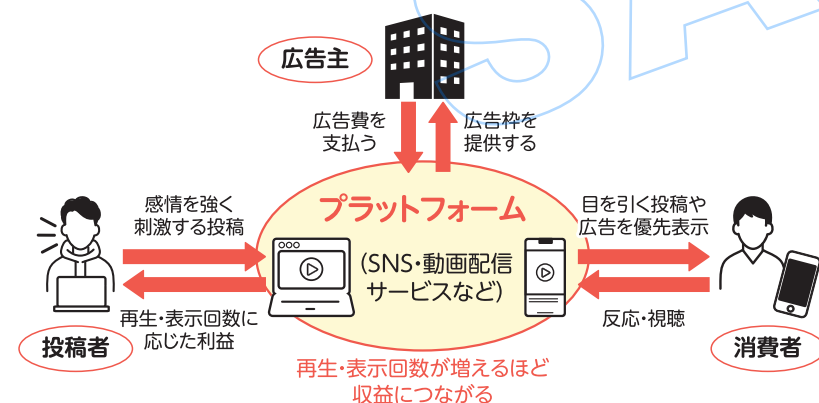
あなたの「注意」が収益の対象に

スマホを開くと、次々に動画や広告が流れてきます。自分で探したわけではないのに、気づけば見続けていたという経験はないでしょうか。

現在のデジタル社会では、私たちの「注意」そのものが価値を持っています。これを**アテンション・エコノミー***といいます。SNSや動画配信サービスは、多くの人に長く見てもらうことで収益を得ています。そのため、サービスを提供するプラットフォーム等では、**目を引く情報や感情を強く動かす内容が優先的に表示**されやすい傾向があります。こうしたしくみは図のとおりです。

投稿者も、再生回数や表示回数が増えるほど利益につながるため、

図 SNS等におけるアテンション・エコノミーのしくみ



* アテンション・エコノミーは「関心経済」とも訳され、注意を集めることが金銭的価値に変わるしくみを指す。SNS上では、情報の真偽よりも刺激的な情報が拡散されやすく、消費者が衝動的に反応してしまうと、意図しない契約や購入につながることもある

注意を引く表現を選びがちになります。こうしたしくみが重なり、私たちは意図せず、表示の順番や強調のされ方に影響を受けながら、日々情報に接することになります。

広告や投稿に流されるリスク

注意を引き、長く引きつけることが優先されるネット空間という環境の中では、内容の正確さよりも目立つかどうか重視されがちです。広告においても、「今だけ」「無料」といった表示にせかされ、十分に比較検討をしないまま契約や購入に進んでしまうことがあります。

また、表示回数が収益につながるしくみのもとでは、情報の真偽よりも拡散されやすさが優先される場合があります。誤った情報が爆発的に広がる背景には、こうした構造があります。

短い動画や次々と流れる投稿は、立ち止まって考える時間を奪い、長時間の利用や想定外の支出につながることもあります。

SNSに振り回されないコツ

大切なのは、すぐに反応しないことです。気になる情報に出会った際は、「なぜ気になったのか」「本当に必要か」と一度立ち止まってみましょう。数分でも時間をおくことで、感情に流されにくくなります。

契約条件や料金表示を確認し、分かりにくい場合は**その場で決めない**ことも重要です。利用時間の確認や利用料金の上限設定など、スマホの機能を活用することも有効です。

私たちの注意を引くことで利益が生まれるしくみがある現状を理解しておくことも大切です。その構造を知り、少し立ち止まる習慣を持つことが、自分の時間を守り、適切な判断をすることにつながります。

情報に振り回されない姿勢を持つことが重要です。

参考 「ネット&SNS よりよくつかった未来をつくろう 知っておきたい16のキーワード「アテンション・エコノミー」」(総務省ウェブサイト)



4

リチウムイオン電池を
発火させないために

スマホやモバイルバッテ

図1 3つのC

リーなど、私たちが普段使用している充電できる製品の多くには、リチウムイオン電池が使用されています。

リチウムイオン電池は、**誤った使い方などにより**

発火し、やけどや大きな火災につながるおそれがあります。

発火を防ぐためにも、図1の**3つのC**^{*1}を意識しましょう。



賢く選ぶ

リチウムイオン電池の発火は、製品の欠陥が原因で起こることもあります。購入する前に、製造・販売事業者や連絡先、製品の仕様などを確認しましょう。また、「消費者庁リコール情報サイト^{*2}」などでリコール情報を確認することも重要です。

さらに、モバイルバッテリーには**PSEマーク**^{*3}が付いていることも確認しましょう^{*4}。

なお、リチウムイオン電池が使用されているかは、本体、取扱説明書、外箱、販売事業者のウェブサイトの記載内容や、これらに表示されている**リサイクルマーク** (図2) などで確認しましょう。

図2 リサイクルマーク



^{*2}



^{*1} リチウムイオン電池の取り扱いで重要な「賢く選ぶ (Cool choice)、丁寧に使う (Careful use)、正しく捨てる、そして資源循環 (Correct disposal with better recycling)」の頭文字をとって「リチウムイオン電池の3つのC」としている

^{*2} 「消費者庁リコール情報サイト」(消費者庁ウェブサイト)

丁寧に使う

製品の取り扱いを誤ると、発火につながる危険性があります。リチウムイオン電池は**衝撃や圧力に弱い**ため、落としたり、ポケットに入れたまま座ってしまったたりすることのないよう気をつけましょう。また、**高温環境にも弱い**ため、炎天下の車内、直射日光のもと、暖房器具の近く、かばんや布の中などの熱のこもりやすい場所などでは使用・保管しないようにしましょう。

さらに、充電したまま就寝し、気がついたら発火していたといった事故も発生しています。充電は周囲に燃えやすいものがない場所、なるべく起きているときに行うことが望まれます。

熱くなっている、膨らんでいる、液漏れする、変なにおいがする、充電ができなくなったなど、**いつもと違うことに気がついたら、使用・充電を中止し、事業者にご相談する**などしましょう。

モバイルバッテリーなど小型の製品が発火した場合は、まず周囲に火災を知らせ、身の安全を確保してから、119番通報してください。炎が弱まり安全が確保できる場合には、消火器や大量の水などで消火を試みますが、危険を感じたらすぐに避難しましょう。

正しく捨てる、そして資源循環

決められた廃棄方法以外で捨てられたことにより、ごみ収集車やごみ処理施設で火災が発生し、ごみ処理の受け入れが滞ってしまうなどの問題も起きています。**捨てるときは、自治体で定められた廃棄方法や事業者の指示する回収方法などを確認**し、それに従いましょう。なお、電池の端子部分に絶縁テープを貼ることで、発火リスクの低減につながります。

参考 「リチウムイオン電池 総合対策ポータルサイト」(総務省消防庁ウェブサイト)

^{*3} 製造・輸入事業者が、電気用品安全法の技術基準に適合することを確認して表示するもの

^{*4} モバイルバッテリーは、製品の性能によってはPSEマークの表示が必要のないものもある

参考

